



■Tackle Guide
釣行前に道糸やリーダーをチエックし、傷があれば結び直すか新しいラインと交換。テンヤは軽いほうが食い込みがいいものの、確実に底ダチを取るのが最優先。初心者は5~15号までサイズを幅広くそろえたほうがいい。

飯岡の二ツテンヤ仕掛け

高橋恵子さんが25センチのカサゴを釣る。続けて左側の近藤さんも22センチのカサゴを上げると、「右トモ2番で大きなアジが釣れたよ」と船長の声。駆け付けると女性が40センチ級の大アジを手に入れた。なんとこの方、テレビ番組「THEカラオケ★バトル」の四天王の一人、高音オペラ魔女こと翠千賀さん。彼女は大の沖釣りファンで、本誌を定期購読しているとのこと。「今日はパートナーと知り合いの3人で来ました」と笑顔で写真に取まってくれた。続いてマダイを釣り上げたのは左トモと右トモの田中さん親子。息子さんは25センチお父さんは30センチとの勝負は父親の勝ち。右側の間で翠さんのパートナーであるアンジェロさんが竿をしならせた。鋭い突っ込

みを見せて上がってきたのは1キロ級のマダイ。続けて彼の竿が大きく曲がる。しかし、巻き上げている様子が何か違う。海面をのぞき込んでみると、上がってきたのは8本足を広げた1.5キロのマダコ。これには船長もビックリ。なんと彼は前回イセエビも釣ったらしく、そういった星の下に生まれたのかもしれない。

最後の流しで面目躍如

反応があるわりにマダイの食いが渋いため、8時過ぎに水深40メートル付近に移動。今度はパラシュートアンカーを下ろして再開となった。ここでは時折小型のマダイやムシガレイなどが上がったが、なかなか調子が上がらない。そんな中、気を吐いていたのがアンジェロさん。良型のホウボウ、1キロ級のマダイ、35センチのハナダイとテンポよく釣り上げ絶好調だ。10時過ぎに私も竿を出す。チョイスしたのは遊動テンヤ10号。アンダーハンドでキャストし、カーブフォールでマダイにアピール。着底したらすかさず竿をおおってリールを3~4回巻き、再びカーブフォールを繰り返す。

船の手前まできたら、根掛かりを防ぐため1メートルほど底を切って待つ。続けてリフト&フォールで誘い、アタリがなければ5メートルくらい上まで探る。するとモソツとした変化を感じ、間髪を入れず合わせると竿が曲がった。しかし重みはあるが、あまり引き込まない。マダイではないと思いつつ巻き上げると、案の定、姿を現したのは40センチのウマヅラ。続いて40センチのムシガレイを釣る。残り時間も少なくなったところで、「最初のポイントに戻りましょう」と船長が移動を告げる。この判断が功を奏し、船内バタバタとマダイや良型ホウボウが上がり撮影に大忙し。そしてこれが最後の流しと告げられたところで、私は再び席に戻り、「本気になったAPCの実力を見せてあげるよ」と仲間を豪語してみた。するとカツカツと乾いたアタリ。合わせを入れると激しく突っ込み、リールのドラ

グが滑る。船長の差し出すタモに収まったのは当日最大1.3キロのマダイ。まさにAPCの面目躍如である。当日のトップは8枚、ゲスト多数ですがまずまず。姿は見られなかったが大ダイと思われるバラシが何度かあり、迎える乗っ込みに向けて期待の持てる一日となった。



▲翠千賀さんがアジに続いてハナダイをキャッチ

●船宿information
九十九里飯岡港
第3潮丸
☎0479-63-1508
(詳細は巻末の情報欄参照)
▶料金=一ツテンヤ乗合一人8000円(エサ別)、女性・小学生まで半額。冷凍エビ1パック1000円、氷100円
▶備考=予約乗合、4時半集合。ほかヒラメ、ハナダイ五目、ルアー青物へも出船

旬の沖釣りをエンジョイ!

今がチャンス! これから楽しみ!

釣りどきレポート

Best Season Report

関東地方のサクラ開花予想は3月23日前後と平年並みですが、魚やイカはすでに各地で満開。今が釣りどき食べどきです!



▲飯岡沖のマダイは上昇気配。当日はアンジェロさんが大活躍

根魚、アジのちマダイ

2月下旬、九十九里飯岡港の第3潮丸に出かけた。船長

「いいですよ。多少根がありますので根掛かりに気を付けてください。反応は底から5メートルまで出てますよ」と潮田船長のアナウンスがあり

みを見せて上がってきたのは1キロ級のマダイ。続けて彼の竿が大きく曲がる。しかし、巻き上げている様子が何か違う。海面をのぞき込んでみると、上がってきたのは8本足を広げた1.5キロのマダコ。これには船長もビックリ。なんと彼は前回イセエビも釣ったらしく、そういった星の下に生まれたのかもしれない。

から事前に、この時期は水深50メートルの深場狙いや、速潮になる場合があるので重めのテンヤも用意したほうがいいとアドバイスがあり、6~15号までテンヤをそろえて準備万端である。当地の釣況を見るとマダイは0.5~1.5キロ級を主体に、様々なゲストが華を添えてにぎやかだった。当日左ミヨシに入った常連の市ノ瀬さんは、「1週間前に来たときは大き

いのは出なかったけどマダイを20枚釣りましたよ」と話してくれた。私を含めた16名の準備が整ったところで5時過ぎに出船。40分ほどで最初のポイントの水深33メートル付近に到着すると、

知得! テンヤ考
Tips and Tricks
テンヤのオモリ形状を大きく分けるとスタンダードな台形型と、丸型のカブラタイプがある。潮を受けてユラユラと落ちる台形型はアピール力抜群。一方、潮の抵抗が少ない丸型は、潮が速いときや、底付近でアタリが集中し、速くテンヤを沈めたいときに活躍する。ほかにリールがオモリの中を通る仕組みで食い込みがよい遊動式などもある。慣れてきたら、それぞれのテンヤの特徴を生かした釣り方で楽しんでいただきたい。

▲テンヤのタイプに凝るのもこの釣りの楽しみ

桜色のマダイに多彩なゲスト 飯岡の二ツテンヤは春も快調

●九十九里飯岡港発↓飯岡沖 本誌APC(東京)鈴木良和 Yoshikazu Suzuki



●すずき よしかず 歳を取ると前頭葉の働きが鈍くなって理性が効かなくなる。そのため歯止めなく、使う予定もないリールや竿を買込みすぎてしまうのが最近の悩みです。